会員紹介　相模原市立博物館学芸員　**秋山　幸也**

## 絶滅危惧種と外来種　悩ましき地域の生物多様性

ギフチョウ

カワラノギク

### 『崖っぷちの絶滅危惧種』

相模原市域で、生物多様性の保全に関して現在大きな問題となっているのは、絶滅危惧種と外来種の問題です。神奈川県内ですでに相模原市内でしか見られなくなってしまったものがいくつかあり、ほぼ例外なく、絶滅の危機に瀕しています。

その中でも、この数年の間に状況が急激に悪化してしまったのが、ギフチョウです。市内緑区の石砂山が、神奈川県に残る最後の発生地であり、その生態や形態などから他の地域とは明確に異なる、文字どおり唯一無二の存在であることが知られています。ところが、幼虫の食草であるカントウカンアオイがシカによる食害を受けて急速に衰退し、当然ながらギフチョウも急激に減少してしまいました。このままでは、数年のうちに神奈川のギフチョウは地球上から姿を消すことになるのは確実です。

また、相模川水系と多摩川、鬼怒川でのみ生育が知られるカワラノギクは、相模川水系では相模原の自生地が最大規模であり、河原に保全圃場を作って保護してきました。圃場の管理は、地元の小学校が保護団体と協働で担ってきましたが、その小学校自体が統廃合により2027年3月で廃校となってしまいます。まさに、崖っぷちの状況です。

### 『深刻さを増す特定外来生物』

外来種問題も深刻です。県南部から分布を広げつつある特定外来生物のクリハラリス（別名タイワンリス）が、2021年についに市内南部の緑地で確認されました。さらにその後も散発的な目撃情報が続いており、今後、定着してしまう可能性が高いと考えられています。

また、サクラなどの樹木の幹に入り込み最終的には枯らしてしまうクビアカツヤカミキリ（特定外来生物）も2024年に成虫が確認され、さらに翌年には南区で繁殖も確認されています。

クリハラリス（別名タイワンリス）

### 『担い手不足解消のために』

このような生物多様性の問題に対して、決して手をこまねいて見ているわけではありません。ギフチョウやクリハラリスの問題では研究者や行政、博物館などが手を組んで緊急対策を始めていますし、カワラノギクは相模川を管轄する神奈川県も注視し、圃場の整備などを進めています。しかし、担い手の高齢化と継承者の不在は共通の問題です。

社会全体で同様の問題を抱えていることは承知の上ですが、相模原市には生物多様性ネットワークがあります。これからの担い手として、ネットワークのみなさんへの期待が高まっています。生物多様性を守るために、ぜひ一緒に汗を流してみませんか。

### 会員募集中 !! 入会随時

さがみはら生物多様性ネットワークに入会して、生物多様性の保全に一緒に取り組みませんか。ネットワークの趣旨に賛同する個人・団体・事業者で活動に積極的に参加していただける方であれば、どなたでも入会できます。

年会費…1口 1,000円
個人・団体会員 /1口以上
事業者会員 /2口以上

生物多様性ポータルサイト

発行者：さがみはら生物多様性ネットワーク事務局
（相模原市水みどり環境課内）
住　所：相模原市中央区中央２－11－15
電　話：０４２－７６９－８２４２
Eメール：midori@city.sagamihara.kanagawa.jp

# さがみはら生物多様性ネットワーク ニュース

第24号
設立10周年記念号
発行日 2026年3月

発行　さがみはら生物多様性ネットワーク

さがみはら生物多様性ネットワークは、生物多様性を将来にわたり保全するための取組を実施し、人と自然が共生する社会の実現を目指しています。
生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。地球上の生きものは全て直接また間接的に支えあって生きています。

さがみはら生物多様性ネットワーク 設立10周年

**2016.2.13　さがみはら生物多様性ネットワーク設立**
設立総会＆第１回さがみはら生物多様性シンポジウム開催

**2016～さがみはら生物多様性シンポジウム**（全8回）

これまでのテーマ
・蝶類多様性と外来種　・社会の雰囲気づくり
・生物多様性から見た地域のセールスポイント
・外来種問題　・シカ　・うな丼の未来　・身近な野生動物
・ビオトープガーデン　・ネイチャーポジティブ

**会員交流会**（全9回）
《講演・座談会》COP、トコロジスト、ビックヒストリーと生物多様性
《活動地見学》　篠原の里、木もれびの森（NPO法人相模原こもれび）
相模原自然の村（さがみはら緑の風）
《施設見学》　いのちの博物館（麻布大学）、相模原市立博物館
北里アクアリウムラボ（北里大学）

**2019～イベント出展**
桜まつり＆若葉まつり
環境まつり
緑の祭典“かながわ未来の森づくり”（2024）

**2020　ロゴマーク完成**

**2021　Youtubeさがみはら生物多様性チャンネル開設**

**2022　相模川ふれあい科学館アクアリウムさがみはらと共同展示
さがまちコンソーシアムとコラボレーション企画実施**

ネットワークニュース第20号拡大号発行

**2024～オオキンケイギク駆除作戦in相模川**

**2026.2.13　さがみはら生物多様性ネットワーク設立10周年**

## 設立10周年を迎えて　さがみはら生物多様性ネットワーク　会長　山口佳志

さがみはら生物多様性ネットワークは、おかげさまで10周年を迎えることができました。この10年、「さがみはら生物多様性シンポジウム」の開催、会員同士が学び合う交流会の実施、そして活動を広く伝える広報紙の発行など、地域の多様な主体が力を合わせながら生物多様性の輪を広げ、繋がりを深めてきました。

こうした積み重ねは、相模原市の生物多様性戦略を支える大切な基盤であり、地域の誇りでもあります。街と自然が隣り合うこの相模原市において、これからも皆さまとともに、生きものと人が調和して暮らす魅力あるまちを次の世代につないでまいります。

**動画配信中！**
さがみはら生物多様性ネットワークチャンネル
生物多様性ってなんだろう？
外来種ってワルモノなの？

# さがみはら生物多様性シンポジウムを開催しました！

設立10周年を記念して、3名の会員の方々より基調講演と活動事例発表を行いました。

## 第Ⅰ部　基調講演

一般社団法人コモンフォレスト・ジャパン理事
坂田　昌子 さん

### 「生物多様性の保全から再生へ ーネイチャーポジティブの実現に向けてー」

異なる種類同士が相互につながりを持っていて、その関係が多様なことを生物多様性と言います。例えば、コウノトリに来てもらうには、絶滅危惧種ではない、いたって普通のカエル等の生き物が田んぼにいないといけません。すると私たちは田んぼの在り方から考えなければなりません。このように、他の植物や動物等との関係が多様で複雑であることが、生物多様性の基本とご理解いただければと思います。

ネイチャーポジティブとは、2020年を基準として2030年までに自然を回復軌道に乗せ、生物多様性の損失を止めて、2050年までには生態系を本来の循環型に戻すという世界の目標のことです。回復傾向に向けていかないと、次世代には何も残すことができません。2020年にマツタケ、2022年にアワビが絶滅危惧種となりました。生き物が1種減るということは、その生き物を食べる文化や使う文化、生き物が登場する物語が消えます。私たちの文化の多様性がなくなっていくのです。どこに行っても同じ風景で、地域固有の食べ物がなくなれば、旅は楽しくありません。そこにしかないものをいかに守り、次世代へ渡していくかということが問われています。

樹齢150年のケヤキは微生物も含めると600種の生き物と共生していると言われています。つまり、ケヤキの木が1本なくなるだけで、600種の生き物がいなくなります。木は光合成をして作り出した糖分を菌根菌というキノコの仲間にあげ、菌根菌は菌糸を伸ばして地中の栄養分を集めて木に手渡すという共生関係があり、森の地面の下には広大な菌糸の森が広がっています。菌糸によって1000分の1ミリほどの穴がたくさんあいていて、雨が降った時にはこの穴にゆっくりと水がしみこんだり、毛細管現象によって水があがってきたりして、木のまわりで水は複雑な動きをします。これを保水力と呼んでいます。草むらの草であっても、地面から水を吸い上げ、葉の水孔から水分を空気中に返しています。雨が降らなくても朝露のように、地面が乾かないように保湿をしてくれます。草むらは、虫の住処になり、その虫を食べる虫や鳥がやってきます。彼らは蚊やカメムシ等を食べてくれる等、人間にとっても良い働きをしてくれます。草刈りのやり方次第で、その場所の生態系に与える影響が変わります。

これからは、自然環境を保全するだけでなく、傷んでしまった自然を再生していく必要があります。伝統的な方法を使って、自然を回復・再生させることができます。例えば、シガラです。杭と枝、落ち葉を組んで、斜面の水の流れをゆるやかにします。すると、湿地や水路が再生し、あっという間にモリアオガエルが戻ってきて、やがてホタルも帰ってきた地域もあります。水がゆっくりと流れることによって斜面の崩壊を防ぐことができ、人間にとっても安心です。そして、乾いた湿地が再生され、草が生い茂り、かつて生えていたツリフネソウ等の植物が再び生い茂り、その植物の蜜を求めて、マルハナバチがやってくるようになりました。こうして、人の手によって自然を再生することができました。

相模原市にとっての文化や暮らしの営みとは何なのか、私も考えていきたいですし、昔に戻ればいいということではなく、都市と生物多様性豊かな里山の風景がミックスするのはとても魅力的なまちになると考えています。宮本常一という民俗学者の言葉で「それぞれの地域に住む者がその土地を真に愛し、その土地で生きのびてゆこうとするとき、その環境もまた美しくゆたかになってゆくものではあるまいか」というものがあります。経済的、効率的だけを優先して人は生き延びていけるのか、自然保護さえすれば生き延びていけるのか、この二択では答えはでません。だからこそ、ネイチャーポジティブという人と自然の関係を再生する道が大事ということです。

詳しく知りたい方はコチラから

シガラによって植物を呼び込む（金沢市牧山）

## 第Ⅱ部　活動事例発表

### NPO法人　緑のダム北相模

### 「相模湖・若者の森づくりとSTEAM教育」

私たちは、緑区相模湖周辺の森で間伐活動等を行っている森林ボランティアです。私たちは中学生のころからこの活動に参加していて、シカの増加による食害が社会問題なっていることや間伐している森林の植生が回復しない現状から、先輩たちの調査を引き継ぐ形でシカの調査を1年間行いました。

光量や土壌水分量を調べましたが、植物の生育に適する環境があると判断でき、間伐後も下層植物が僅少である原因にはシカ等の野生植物の食害にあると考えました。シカが忌避するとされているマツカゼソウやサンショウを同じ山の別地点から移植し、定点カメラからシカの移動経路を考察しました。すると、移植エリアへのシカの侵入率は約 72%減少しました。シカが忌避するとされている植物を移植することでシカの移動経路が変わる可能性があり、食害削減につながるのではないかと考えられます。

### 北里アクアリウムラボ

北里大学海洋生命科学部教授
三宅　裕志 さん

### 「人を育てる水族館へようこそ！ ー学生が主役の北里大学水族館ー」

北里アクアリウムラボは学生が最初から最後まで作る水族館です。学生たちが考えて、大学で研究していることの窓口となるよう、研究成果を人にわかりやすく伝えるという、他の水族館にはない特徴をもった水族館ができました。

水族館で働く卒業生とのつながりも大切にしています。また、水族館と連携し、希少種等を育てて種の保存や調査研究につなげたり、地域と連携して相模原市民桜まつり等の地域のお祭りにミニ水族館を出展したり、小学校で学生たちが授業を行ったりしています。

展示ができるまでに、学生たちは企画書を書くことからはじめ、なぜそれを展示するのか、どのように展示するのか方法を考え、予算も考えます。そうして作った展示をオープンキャンパス等で見てもらい、お客さんの反応を見て、反省をして次の展示に活かします。水族館運営を通して、社会に出てから自分のしたいこと、任されたことをチームの中で形にできる人を作っていくのが北里アクアリウムラボです。

## 会員交流会を開催しました！

相模原市立博物館で会員交流会を開催しました。第1部では学芸員から「収蔵庫はタイムマシーン　地域の生物多様性を支える地域博物館」をテーマの講義を受けた後、バックヤード・収蔵庫の見学を行いました。第2部では参加者の中から6会員が活動紹介を行いました。

## 生物多様性のために私がやっていること～広報部会～

**三宅　潔 部会長**
**（昆虫文化を子供たちに伝える会　代表）**
生物多様性の重要性をあまり考えたことがない市民の方々にも分かりやすく伝わるように、様々な機会を作り頑張ります。ご協力よろしくお願いいたします。

**出口　忠夫 副部会長**
審議会の委員を契機に相模原市民の生物多様性の認知度向上にお役に立てないかと会員になって10年。
今は地球温暖化による生物多様性への影響に関心をもって勉強しています。

**特定非営利活動法人and Advance**
**斎藤　奈美 さん**
庭で家庭菜園を営み、虫や鳥が訪れる環境を整えています。生き物の繋がりを身近に感じ、賑わいや実りを楽しみながら、小さな生態系を守っています。

**桜美林大学リベラルアーツ学群教授**
**片山　博文 さん**
日本各地の伝統工芸は、地域の生物多様性を活かし、文化の多様性を生み出す上でとても大事だと思います。私自身、趣味でつまみ細工をやっています。

**相模川ふれあい科学館**
**アクアリウムさがみはら**
当館では体験型の館外イベントを行っています。イベントでは参加者が自然の中での体験を通して、生き物や環境への興味を持っていただくよう努力しています。

**NPO法人緑のダム北相模**
相模湖で活動する森林ボランティア、緑のダム北相模です。木が成長しすぎている森を間伐し、森を明るく、下草が生え、生き物であふれる生物多様性の高い森を目指しています。

**木もれびの森の花と木々を守る会**
甘党にはミツバチやラックカイガラムシは大切な小動物ですね。森の花や樹木を大切に生かしています。生物多様性ポータルサイト上級クイズに挑戦してみよう！

**相模原柴胡の会**
相模原で自生のミシマサイコが見られたのは1955年頃まで。現在、相模原柴胡の会では、この神奈川県・絶滅危惧植物を市内各所で栽培・保全活動をしています。

広報部会では、このネットワークニュースを年に2回発行する等の活動を行っています